

## PRESS RELEASE

2015年9月16日  
株式会社三菱総合研究所

## 日銀短観（2015年9月調査）予測

株式会社三菱総合研究所（代表取締役社長 大森京太 東京都千代田区永田町二丁目10番3号）では、10月1日（木）に日本銀行より発表される予定の「企業短期経済観測調査（日銀短観）2015年9月調査」の業況判断DIについて予測を行った。

大企業・全産業の業況判断DI	————	+ 17%ポイント（6月調査比 ▲2%ポイント）
同・製造業の業況判断DI	————	+ 13%ポイント（6月調査比 ▲2%ポイント）
同・非製造業の業況判断DI	————	+ 22%ポイント（6月調査比 ▲1%ポイント）

業況判断DI（大企業・全産業）は、+17%ポイント（前回6月調査から▲2%ポイント低下）と4期ぶりの低下を予想する。中国をはじめとする新興国経済の減速や金融市場の不安定化などを受けて、製造業を中心に企業活動が慎重化しており、業況判断DIは悪化を予測する。

製造業の業況判断DI（大企業）は、+13%ポイント（6月調査から▲2%ポイント低下）と予測する。原油や金属など資源価格の下落が素材業種を中心に業況改善要因とはなるものの、輸出の低迷や国内消費の不振、在庫調整の遅れなどが、加工業種を中心に、広く業況悪化要因となるとみる。

非製造業の業況判断DI（大企業）は、+22%ポイント（6月調査から▲1%ポイント低下）と予測する。原油価格の下落が電力業などを中心に業況改善要因となるが、低調な製造業の生産活動を映じて、卸売業や運輸業の業況は悪化するとみる。小売業も、株価の下落や天候不順を受けて業況が弱含むことが予想される。非製造業の業況は、前回調査から小幅悪化を予測する。

先行きの業況判断DI（大企業）は、製造業は+10%ポイント、非製造業は+20%ポイントといずれも悪化を予測する。中国をはじめとする新興国経済の下振れリスクが高まっているほか、米国の利上げを控える中、金融市場も不安定化しており、製造業、非製造業ともに先行きに対する見方は慎重化しているとみる。

## 日銀短観（2015年9月調査）業況判断DI予測結果

「良い」-「悪い」 単位：%ポイント		実績		予測	
		2015年 3月	2015年 6月	2015年 9月	2015年 12月
		3月調査 「最近」	6月調査 「最近」	9月調査 「最近」	9月調査 「先行き」
大企業	全産業	16	19	17	15
	製造業	12	15	13	10
	非製造業	19	23	22	20
中堅企業	全産業	10	10	9	7
	製造業	4	2	2	▲1
	非製造業	14	16	15	13
中小企業	全産業	2	2	1	▲2
	製造業	1	0	▲1	▲5
	非製造業	3	4	3	0

注1：シャドー部分が2015年9月調査の予測値。

注2：「先行き」は、調査時点から3か月後を表す。

資料：実績は日本銀行「企業短期経済観測調査」、予測は三菱総合研究所。

## 《本件に関するお問合せ先》

株式会社 三菱総合研究所 〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目10番3号

政策・経済研究センター 森重彰浩 坂本貴志 田中康就

電話：03-6705-6087 FAX：03-5157-2161 E-mail：morisige@mri.co.jp

広報部 峰尾 電話：03-6705-6000 FAX：03-5157-2169 E-mail：media@mri.co.jp

尚、本資料は、内閣府記者クラブ、金融記者クラブに配布致します。